

新規事業採択時評価結果（令和5年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：高松 諭

事業の概要

事業名	スマートICアクセス 一般県道（仮称）竜舞足利線 （仮称）足利スマートICアクセス	事業区分	地方道	事業主体	栃木県
起終点	自：栃木県足利市山下町 至：栃木県足利市五十部町	延長	1.1km		
事業概要	<p>一般県道（仮称）竜舞足利線は、群馬県太田市を起点とし、足利市中心部に至る幹線道路であり、本事業箇所は都市計画道路3・5・106号7丁目大前線の一部として都市の骨格を担う道路である。</p> <p>また、足利市で現在計画している（仮称）足利スマートICへの唯一のアクセス道路であることから、本路線を整備することにより、広域的な交流・連携の促進や災害時における安定的な輸送の確保及び広域医療体制の充実を図ることを目的とし、足利市山下町～足利市五十部町までの延長1.1kmを整備するものである。</p>				
事業の目的、必要性	<p>当該事業の整備により、足利赤十字病院（第三次救急医療機関）へのアクセス性が向上されることで、広域医療体制の充実につながると期待される。</p> <p>当該事業の整備により、洪水等の災害時に安定的な輸送経路を確保されることから、復旧活動の迅速化につながると期待される。</p> <p>当該事業の整備により、観光客のアクセス性が向上されることで、観光客の増加が期待される。</p>				
全体事業費	約18億円	計画交通量	5,700台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

- ・都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている。
- ・「足利市都市計画マスタープラン」（H30.3改訂）：主要幹線道路に位置づけられている。
- ・足利市から本事業の早期完成の要望活動が行われている。
- ・県計画「県土づくりプラン2021」において、重点施策に位置づけられている。
- ・県計画「とちぎの道路・交通ビジョン2021」において、「全国・海外と連携する交通ネットワークの充実・強化」に位置づけられている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

- ・栃木県公共事業評価委員会（令和4年11月28日）において、新規事業化は妥当であると評価。

事業採択の前提条件

- ・費用対便益：便益が費用を上回っている。
- ・令和4年9月30日付けで（仮称）足利スマートICが新規事業化。
- ・手続き完了；都市計画決定手続き完了（平成13年1月19日）

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.9	総費用：15億円 （事業費：14億円 維持管理費：0.48億円）	総便益：28億円 （走行時間短縮便益：25億円 走行経費減少便益：2.9億円 交通事故減少便益：0.14億円）	基準年 令和4年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.7（交通量 -10%）	B/C=2.1（交通量 +10%）		
		事業費変動	B/C=1.7（事業費 +10%）	B/C=2.1（事業費 -10%）		
	事業期間変動	B/C=1.8（事業期間 +20%）	B/C=2.0（事業期間 -20%）			
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価	根拠			
	渋滞対策	◎	・混雑する中心市街地や渡河橋梁を回避した高速道路へのアクセスが可能となり、交通の転換が図られることで、混雑の緩和が期待。			
	事故対策	○	・中心市街地へ流入していた交通の転換が図られることで、交通事故の減少が期待。			
	歩行空間	○	・歩道を整備することにより、安全な歩行空間が確保。			
	社会全体への影響	住民生活	◎	・足利赤十字病院（第三次救急医療機関）への緊急搬送時において、主要渋滞箇所を回避したアクセスが可能となり、広域医療体制の充実が期待。		
		地域経済	○	・足利市西部地区の産業集積地から混雑する中心市街地や渡河橋梁を回避した高速道路へのアクセスが可能となり、輸送時間の短縮及び定時制の確保が図られることで、産業の活性化が期待。		
		災害	◎	・浸水想定区域外に設置されるICにより、災害時においても確実性の高い輸送経路が確保され、復旧活動を迅速化し、社会活動の早期再開に寄与。		
環境		—	・注目すべき影響はない。			
	地域社会	◎	・市街地へ短い所要時間でアクセスできる新たな経路が確保されることで、アクセス性が向上し、観光促進が期待。			
事業実施環境	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・北関東自動車道との連結許可（令和4年9月22日） ・都市計画決定手続き完了（平成13年1月19日） ・足利市から早期整備の要望を受けている。 				

採択の理由

事業主体である栃木県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.9と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

また、（仮称）足利スマートICと併せて一般県道（仮称）竜舞足利線を整備することにより、広域的な交流・連携の促進や災害時における安定的な輸送の確保及び広域医療体制の充実が見込まれることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。

以上により、本事業は令和5年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。